

東京都新宿区北新宿1-8-16
東京土建一般労働組合
電話03 (5332) 3971 (代表)
FAX03 (5332) 3972
発行人・編集人
三木 勉

印刷部数11万4000部
(購読料は組合費のな
かに含まれています)
(年間購読料 千八百円)
定価 五十円



東京土建のホームページ <http://www.tokyo-doken.or.jp/>

パワービルダー 懇談に要望を

3月上旬、全建連関東地協がパワービルダー10社と懇談を行ないます。ついでに事前に従事者の方から、パワービルダーに対する要望を群会議などの機会に集約して行きます。ご協力ください。

首都圏建設アスベスト訴訟 東京3陣第6回期日& ニチアス本社前宣伝

法廷の内外で包囲する

ニチアスは基金制度に参加を

12月24日、首都圏建設アスベスト訴訟東京3陣第6回期日行動と、ニチアス本社前宣伝行動が行なわれました。東京地裁前には、首都圏の建設労組の仲間など全体で300人が結集し、東京土建は164人(内、原告が30人)が参加しました。

地裁前集会の冒頭、松本副本部長は原告団共同代表の宮島和男さんが亡くなったことにふれ、残念だったが、国は全面敗訴し謝らざるを得ない、12月16日の東京2陣など全国で和解が進んでいるが、未だに

和解に応じない建材メーカーの態度を批判しました。東京弁護士団の森弁護士は3陣の裁判の状況について、国に対しては一日でも早く和解せよと督促し、和解も謝罪もしない建材メーカーには裁判での働きかけを強め、来年ま

でにめどを立てたい。法廷と法廷外で建材メーカーを包囲する」と、解決に向けて決意を述べました。

ニチアス本社前では統一本部、埼玉と神奈川の原告、全建連、建設首都圏共闘、神奈川弁護士団、神奈川建連の仲間が結集し、東京地裁前には、首都圏の建設労組の仲間など全体で300人が結集し、東京土建は164人(内、原告が30人)が参加しました。

神奈川弁護士団長の西村弁護士は、四日市の大気汚染裁判の結果、被告企業が政府に働きかけて補償法を作ったことを述べました。

間が登壇し訴えました。苦しい闘病生活を余儀なくされている本人原告や、大切な家族を亡くした遺族原告からは、「いつまで苦しめるのか、一刻でも早く和解し、補償しろ」との切実な声を突きつけました。

神奈川弁護士団長の西村弁護士は、四日市の大気汚染裁判の結果、被告企業が政府に働きかけて補償法を作ったことを述べました。

長が挨拶し、今年の千支に因んだ2つの四字熟語を紹介。それぞれ共有と団結という意味に解釈し、常に活動のなかで意識してほしい。また意識改革という言葉もあけ、現状を打開するために考えていたのだと述べました。

鏡開きに続いて乾杯、きよくるチャンネルの映像上映、お楽しみ抽選会を行ないました。映像では流しうめん交流会、東京土建デーなどの取り組みを紹介し、抽選会ではサンふじ3kgのApple賞など、趣向を凝らした賞品が全員に当たりました。

春一番の運動提起を小田澤陽一書記長が行ない、声を上げられない仲間の声を拾い上げるために仲間を増やそうと訴え、最後に団結がんばろうで閉会しました。

三鷹武蔵野 対話重ねた活動で 年間実増を勝ち取る



和気あいあいとなった大抽選会

1月9日、吉祥寺第一ホテルで三鷹武蔵野支部は2022年・新春のつどいを開催しました。コロナ感染拡大で来賓は東京土建本部だけに限定し(渡辺義久副委員長が挨拶)、分会からの参加者、支部役員、書記局、総勢83人の参加でした。

支部を代表して島村新委員長は「昨年はコロナに苦しんだ1年であったが、春秋の拡大月間では一昨を上回り成果を残せた。仲間が頼り添い、対話を重ねる活動が信頼を得られたからだと思う。今年もCCUS、インボイス、石綿

長が挨拶し、今年の千支に因んだ2つの四字熟語を紹介。それぞれ共有と団結という意味に解釈し、常に活動のなかで意識してほしい。また意識改革という言葉もあけ、現状を打開するために考えていたのだと述べました。

鏡開きに続いて乾杯、きよくるチャンネルの映像上映、お楽しみ抽選会を行ないました。映像では流しうめん交流会、東京土建デーなどの取り組みを紹介し、抽選会ではサンふじ3kgのApple賞など、趣向を凝らした賞品が全員に当たりました。

春一番の運動提起を小田澤陽一書記長が行ない、声を上げられない仲間の声を拾い上げるために仲間を増やそうと訴え、最後に団結がんばろうで閉会しました。

清瀬久留米 共有・団結を意識し 仲間の声を拾う



ヨイシヨの掛け声に合わせて鏡開き

を紹介し、「ニチアスは被害者に対して、10年分の営業利益に相当する2000億円の補償をしろといった司法判断を突き付けられている。率先して補償基金制度に参加するのが本来の姿だろう」と批判。「ニチアスに決断させるまでたたかう」と表明しました。訴えの中間には「ニチアスはアスベスト被害者に償え」などとシュプレヒコールを行ない、付近を通行する人にニチアスの責任を明らかにしたチラシを配布しました。一時

清瀬久留米支部は1月9日、豊島区のホテルメトロポリタンで新春旗びらきを開催。59人が参加しました。開会にあたり前川達夫委員

長が挨拶し、今年の千支に因んだ2つの四字熟語を紹介。それぞれ共有と団結という意味に解釈し、常に活動のなかで意識してほしい。また意識改革という言葉もあけ、現状を打開するために考えていたのだと述べました。

鏡開きに続いて乾杯、きよくるチャンネルの映像上映、お楽しみ抽選会を行ないました。映像では流しうめん交流会、東京土建デーなどの取り組みを紹介し、抽選会ではサンふじ3kgのApple賞など、趣向を凝らした賞品が全員に当たりました。

春一番の運動提起を小田澤陽一書記長が行ない、声を上げられない仲間の声を拾い上げるために仲間を増やそうと訴え、最後に団結がんばろうで閉会しました。

2022年の飛躍めざして旗びらき開催

こうして政府が作った土俵の上で米軍のコロナ対策を審議しても、ちがが明かない。松竹さんは「法律や条約の解釈が曖昧な場合、何よりも国民の権利が外国軍隊の権利より優先されるように解釈されるべき」と指摘する。属国的立場から脱却したいものだ。

■新型コロナウイルス感染症はオミクロン株も影響し急拡大している。その原因の一つが在日米軍基地だ。米国はPCR検査なしで軍人らを在日米軍基地に送り込んでいた。感染者が増えるのは当たり前だ。国会では米軍に感染対策を取らせようと、日米地位協定の見直しについて論議しているが、ライター松竹伸幸さんの見方は異なる。

■松竹さんは自身のブログで、日米地位協定で日本の法令適用から除外されているのは、「旅券及び査証」と「外国人の登録及び管理」に関するものだけなので、明記のない「検疫法」については日本の法令を適用させるべきと述べている。

■またかつて国会で地位協定が審議されたときに、政府は検疫について地位協定で米軍の特権が明記されていないければ日本の国内法が適用されると明言していたが、ベトナム戦争でベトナムの土がついた米軍車両が日本に持ち込まれて、地位協定に特権の明記がなくとも特権が保障されると転換したそうだ。